

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105743
法人名	有限会社 媛のくに
事業所名	グループホーム 媛のくに
所在地	愛媛県松山市枝松3丁目1-23
自己評価作成日	平成24年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

* ホームの理念に掲げているように、ご利用者の笑顔にこだわり、個々の思いに耳を傾け「こんな事したい」「こんな所に行きたい」という希望を可能な限りかなえる事が出来るよう支援しています。
 * 近隣のスーパー、食べ物屋さんなどに積極的に出掛ける事で、出来るだけ地域に溶け込めるよう、また生活の幅が広がるよう支援しています。
 * 公文学習療法を取り入れ、認知症に対して積極的にアプローチしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

午前と午後にかけて、食材の買い出しに行く等、利用者が出かける機会を多く作っておられる。利用者の希望で喫茶店に出かけたり、近所のお店にランチを食べに行くこともある。利用者は、職員といっしょにマンドリンコンサートに出かけたり、美術館に出かけておられ、その際のポスターを自室に貼っている方もみられた。毎週日曜日に娘さんと一緒に外出して、ドライブや外食を楽しまれている方もいる。利用者個々に「個別外出支援計画書」を作成して、利用者が行ってみたいところに出かけられるような支援に取り組まれている。計画書は、時間等について具体的に計画されており、ある利用者の計画書には、ご主人との思い出の場所に出かける計画が立てられていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 媛のくに

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 日野 玲子

評価完了日

平成24年 1月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 入り口に掲示したり、日誌にも印刷する事で、いつも目に触れ、常に理念を意識し、共有できるようにしている。今年度のユニットの目標は「ご利用者との関わりを増やす」とし実践している。	
			(外部評価) 理念は、玄関に掲示し、業務日誌にも示して、日々職員の目に触れるようにされている。今年度から、ユニットごとに目標を決め、年度末には全職員で振り返り、次年度に向けて新たな目標を立て、理念が実践できるように取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方に運営推進会議に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたりしている。またお花や野菜などいただいたり、散歩中言葉を交わしたりと近隣の方々との交流も増えている。ホームで防災講演会を開催し近隣の方にも参加していただいている。	
			(外部評価) 近所の方から野菜をいただいたり、買い物に出かけた際にお会いすることもよくあり、あいさつされたり、おしゃべりしたりして交流されている。町内会長から誘っていただき、地域の運動会に参加した際には、利用者の席を用意していただき、利用者も応援をして楽しまれた。又、地域の夏祭りや盆踊りにも参加されている。近所の方が事業所の菜園の手入れをしてくださったり、時には、野菜の作り方を教えてくださっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の際に活動報告したり、ホームの夏祭りに参加していただいた時等に、ご利用者と職員との関わりを見ていただいている。また、質問、相談を受け付ける体制は整えてある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>概ね2ヶ月に一回開催し、ホームの活動報告、外部評価の結果報告等し、意見や質問、助言をいただきケアの質の向上に努めている。</p>	<p>管理者は「もっと事業所のサービスに活かせるような会議にしたい」と考えておられ、今後は「職員も会議に参加できるようにすすめたい」と話しておられた。又、ご家族からの声をきっかけに「認知症の勉強会」を行うことも考えておられ、事例を紹介して、認知症の理解につなげたいと話しておられた。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、町内会長や近所の方、市の担当者や利用者、ご家族、近隣の介護事業所からの参加もいただいている。事業所からは、利用者の現況や活動報告を行い、近隣介護事業所とは、災害時の訓練方法、備蓄品リスト等について情報交換されている。又、事業所で支援に困っているような事例について意見交換して、メンバーから意見やアイデアをお聞きしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加していただいた際、事業所の状況を報告したり、取り組みについて伝えている。また市主催の事業者連絡会に必ず参加したり、運営上の疑問、問題等あればその都度質問、相談している。</p>	<p>運営推進会議は、併設デイサービスの場所を借りて土曜日の午後に開催し、市の担当者の方も出席してくださっている。身寄りのない利用者の支援について相談された際には、成年後見制度について教えていただき、利用につなげたようなこともある。又、利用者の生活や金銭管理の相談等しながら支援されている。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、併設デイサービスの場所を借りて土曜日の午後に開催し、市の担当者の方も出席してくださっている。身寄りのない利用者の支援について相談された際には、成年後見制度について教えていただき、利用につなげたようなこともある。又、利用者の生活や金銭管理の相談等しながら支援されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングや日々の申し送り等で具体的な行為を振り返り、確認している。職員間で声掛け合い連携を図って夜間以外は施錠しないよう徹底している。</p>	<p>玄関は、日勤者の出退勤時に開閉するようになっている。事務所には、「身体拘束排除宣言」の項目が掲示されていた。ミーティング時、管理者は、身体拘束の具体的な行為について説明されたり、歩こうとする利用者に「座ってて」ということも拘束になることを話し、職員で日々のケアについて話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組んでおられる。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関は、日勤者の出退勤時に開閉するようになっている。事務所には、「身体拘束排除宣言」の項目が掲示されていた。ミーティング時、管理者は、身体拘束の具体的な行為について説明されたり、歩こうとする利用者に「座ってて」ということも拘束になることを話し、職員で日々のケアについて話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組んでおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に繋がり兼ねない不適切ケアについて、全職員がもっと理解を深める必要がある。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会などに参加し理解を深めるよう努めている。成年後見制度を活用し始めたご利用者もいらっしゃる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前には自宅を訪問したり、ホームを見学していただいたり、関係作りを心がけている。また契約時には、利用料、起こりうるリスク、重度化や看取り、医療連携の実情についての説明を行い、理解、納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議時に参加して頂いた方に意見や思いを伝えられる機会を設けている。ご家族には、ケアプラン変更時に文書にて意見を求めたり、ご家族面会時に意見、要望等を伺っている。 (外部評価) ご家族の来訪時に利用者の様子を伝え、ケアや暮らしについて意見や要望を聞くようにされている。「家族の集いのあり方」についてアンケートを取られた際には、時間や形式についていろいろな意見をいただいた。管理者は、まず「夏祭り」等、事業所の行事の際には、ご家族にも案内を出して、ご家族も集えるようにしたいと考えておられた。利用者個々の担当職員が、利用者の様子を手紙にして写真を添え、毎月書類とともにご家族に送付されて、ご家族に喜ばれている。ご家族のお仕事上、夜間来訪されるような方もあるが、快く迎えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の定期的なミーティングを設け、情報の共有、意見や提案を聞く機会を設けている。またそれ以外にも、その都度意見や提案を聞くようにしている。	
			(外部評価) 毎月、ユニットごとにミーティングを行い、職員でアイデア等を出し合い、行事計画等を立てておられる。利用者個々の担当職員が利用者に年賀状を出し、正月は利用者が新年の気分を味わえるよう工夫された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者も頻繁にホームに来ており、職員に声を掛けてくださったり、ご利用者と共に過ごすことにより現場の状況の把握をしている。 健康診断も定期的に(夜勤者年2回、それ以外年1回)行っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者が個々の職員の能力に応じた研修を勧め参加しているが、今年度は働きかけが少なく研修の機会が少なかった。また、もっとホーム内の勉強会を増やしていきたい。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同地区のグループホーム3ヶ所で相互に運営推進会議、夏祭り等行き来し、交流を深めている。また、グループホーム連絡協議会や、社協が開催する研修会に積極的に参加し、同業者と交流する機会を設け意見交換等しサービスの質の向上を図っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、これまでの生活歴、環境、不安、要望などをご本人、ご家族様から親身に聞き取り、ホームでの対応方法を事前に話し合い検討し、柔軟に対応できるよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談時に、ご本人とは別に話を伺う機会を設け、ホームに対する要望、不安等ご家族の思いに耳を傾け、納得いくまで説明、話し合う事で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面談時によく話し合い、要望や不安等をよく聞き意向を確認している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や畑仕事、季節の行事やしきたりなど、教わったり、手伝って頂いたりしながら生活を共にしている。また、個々の得意な事を把握し活躍できる場面を多くできるように支援している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族面会時には近況報告したり、居室で一緒にゆっくりと過ごしていただけるようにしている。今年度より、毎月請求書送付時に写真付きで近況報告の手紙を同封している。ご家族をご利用者のサポーターとして、またホームのサポーターとして、関係、連携を深めていきたい。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 積極的なアプローチは行えていないが、ご本人、ご家族の希望があれば支援していきたい。 (外部評価) 利用者の同級生が訪ねて来られた時には、居室でゆっくりできるように言葉をかけておられる。友人と手紙のやり取りをされている方には、切手や便箋を用意されたり、職員が投函する等しておられる。近所の美容室を利用されている方は、美容師と顔馴染みとなり、時には雑誌をいただいて帰ることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員はご利用者同士の相性、関係を把握し注意深く見守っている。 食堂での席、外出時の配車等も配慮している。 時として起こるご利用者同士のトラブルもお互いの気持ちを十分配慮し間に入っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設や入院された方には面会に行ったりしている。 また、ご家族には、いつでも相談に応じられる事を伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人、ご家族の思い、希望を伺うなどし情報を集め把握に努めている。 確認困難なご利用者は、日頃の言動、表情、生活暦などから思いをくみ取るよう努め、検討している。 (外部評価) 職員は、利用者との日頃の会話等の中から個々の思いや意向を引き出せるよう努めておられる。職員が利用者の思いや希望に気付いた際には、日々の介護記録に記し、分かりやすくマーキングされている。担当職員は、ご家族が来られた際にはゆっくりお話しするよう心がけて、利用者のこれまでの生活歴を聞き取るようにされている。	管理者は「利用者の思いや希望を全職員で共有ができるような様式を検討したい」と考えておられる。利用者個々がその人らしく暮らせるような支援につなげられるよう、日々得た情報の記録方法についても工夫していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にご本人、ご家族に聞き取りを行ったり また、ご家族にセンター方式の用紙をお渡しし、記入していただく事により生活歴等の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、日々の支援の中での変化、気づき等職員間で共有し、支援内容の検討をその都度行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人、ご家族の意向、要望を伺い職員全員でカンファレンスを行いケアプランを作成している。 毎月各担当者が他の職員の意見なども聞きモニタリング行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、担当職員が毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎に全職員でアセスメントを行い見直しをされている。体重増加が気になる利用者には、生活の中で体を動かすような機会が作れるようご本人のお好きなこと等も踏まえて「午後から食材の買い物に行く」ことや「テレビ体操を行う」こと等を支援内容に採り入れておられた。ご家族からの意向で公文学習を採り入れている利用者もあり、ご本人は「頭の体操よ」と言って楽しく行っておられるようだ。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者の変化等、個別の経過記録に記入し情報の共有をしている。また、ケアプランに関する記録は色を変えたり、特に注目してほしい記録にはマーカーを記している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人、ご家族の意向を配慮し、できる限りの支援を柔軟に行うよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に地域の方に参加していただく事により、地域で行われる行事の日時、公民館活動などの情報を得る事ができ、参加させていただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医を決めている。提携病院の週1回の医師の往診と、看護師の訪問で日常の健康管理、異常の早期発見に努めている。	
			(外部評価) 入居時に、ご本人ご家族と主治医について相談され、現在はすべての利用者が週1回、系列医療機関の往診を受けておられる。毎朝、体温・血圧を測定し、気になる時には、系列医療機関に報告し、主治医の指示を仰ぐようになっている。ご自分の歯がある方は、月に1回、近所の歯科で定期的に診察を受けておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 提携病院の看護師が週1回訪問していただき、日頃の健康管理、医療面での相談、助言、対応を行っている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時にはご本人の情報を提供している。また職員が頻繁に面会に行く事により病院での状況を把握し速やかな退院支援に結びつけている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者、ご家族が安心してサービスを受ける事ができるよう医師、看護師を交えて話し合いを行っている。またご本人の状態の変化に伴い変化していくであろうご家族の思いに添えるよう柔軟な対応をしていき、納得できる最期となるよう支援したい。	
			(外部評価) 入居時に「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」に沿って説明され、重度化した場合の対応については、アンケートを取り希望をうかがうようにされている。現在は「わからない」と答えるご家族が多いようである。現在、食欲が低下し、ベッド上で過ごす時間が多くなった利用者がおられ、ご家族と相談して「食べたい時に食べられるだけ食べる」ことを支援されており、調査訪問日には、11時ごろに居間の椅子に座り、ゆっくりと食事をされている様子がみられた	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が対応できるよう、年2回消防署員指導による応急手当、蘇生法訓練を実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回ご利用者と共に火災避難訓練を行い、近隣の方にも訓練に参加していただいている。 火災以外の災害については、具体的な訓練は行えていないが、防災講演会を開催し、職員、ご家族、近隣の方に参加していただき(希望者)防災意識の向上に努めている。	
			(外部評価) 6月には日中想定、9月には夜間想定での避難訓練を実施された。利用者も全員参加して、実際に屋外まで避難する訓練を行われた。又、職員が利用者役になり、非常階段でレスキューマットを使って2階から避難させる訓練を体験された。運営推進会議では、消防署の方に「自助、共助、公助とあるが、自分達で守ることが重要」、「各自が防災意識を高める」こと等、防災について講義していただき、ご家族や地域の方とともに勉強された。	避難訓練を重ねられ、消防署からのお話や地域の自主防災の取り組み等を経験して、事業所独自で具体的な防災マニュアルを作成することを考えておられた。又、近隣の介護施設の防災対策会議に参加され「地域の連携」等も考えていきたいと話しておられた。今後、これまでの経験や大震災の教訓等を活かして、災害対策をキーワードに、利用者・職員・地域の方達の安全に向けて、事業所のできることを探り、取り組みを具体的にすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) まだまだご利用者への配慮に欠ける声掛け等が気になる為、その都度職員同士で注意しあっている。	
			(外部評価) 利用者の居室に入室する際、職員は、利用者個々に声をかけて「見せてもらってもいいですか」と理解を得ておられた。職員が利用者への言葉かけについて、口調がきつくなるような時には、管理者がその都度職員と話し合うようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の会話の中で、ご本人の嗜好や希望等の情報を集め支援につなげている。 また、ご利用者が決めやすい(答えやすい)問いかけを心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペース、リズム等考慮し、その日の状況、気分で変化 する気持ちを尊重し支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 外出時にはご本人に似合う服を選んでさしあげたり、ご本人 に選んでいただいたりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の得意な作業を把握し、お手伝いしていただいで いる。フロアと台所がつながっている為、調理時の匂いなど 会話の話題として生活の中にも溶け込んでいる。また食事中 は職員も一緒に食べ、会話も楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事当番の職員が、冷蔵庫の中のものや、いただいた野 菜、前日の献立も考慮して献立を決め、調理されている。職 員は、利用者と一緒に、近くスーパーに食材を買い出しに行 かれており、利用者がスーパーに並んでいるウナギのかば 焼きを好まれ、急きょメニューが決まるようなこともある。台拭 きをされて、ランチョンマットを敷いたり、箸を配る等、「食事 の準備係」や「食器を拭く係」等、利用者それぞれに役割分 担して利用者と職員で協力し合っておられる。職員は、利用 者と同じものを同じテーブルで食べられていた。週1回、夕 食時にチュウハイを飲むことを楽しみにされている方もおら れる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量を記録し把握行っている。 また自力摂取しやすいようにおにぎりにしたたり、おじやにした りし、その日の状態に合わせて提供し召し上がっていただいで いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後ご利用者に合わせて歯磨き支援行っている。 また、自歯に方は毎月近所の歯科受診し、口腔内クリーン グをしていただいでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、時間誘導を行っている。立位困難なご利用者も日中は2人介助にてトイレ誘導行っている。</p> <p>(外部評価) 排泄の状態と水分の摂取状態を表に記入して、トイレの声かけや誘導を行っている。排尿の回数が頻回な利用者に「さっきも行ったでしょう」とか、ご自分でトイレに行こうとした時、転倒を心配して「座っていてください」と言葉をかけることもあったようだが、「職員の言動がご本人のストレスになっているのではないか」ということに職員が気づかれた。薬物治療とともに、ご本人のストレスを除けるような支援にも取り組まれ、現在は落ち着いた生活を送っておられる利用者の事例がある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表と水分チェック表を1枚の用紙にし、水分補給の徹底を意識している。また、ご家族に依頼しヤクルト、ヨーグルト等を面会時にもって来ていただいたりしている。食事面でも食物繊維の多い食材等を意識している。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴を拒まれる方は無理強いせず翌日に変更したり、ちがう職員が声掛け行ったりチームプレイで行っている。特に希望される方がいない為、夜間入浴は行っていない。</p> <p>(外部評価) ユニットにより、一般家庭用の浴槽と車椅子を使用する利用者が安楽に浴槽で温まれるように機械浴も設置されている。浴室はエアコンで温度調節でき、冬場は室内を暖めてから入浴できるよう支援されている。希望を聞きながら入浴できるようにされ、冬場は週に2~3回の入浴の希望が多いが、夏場はほとんどの利用者が毎日入浴されている。湯船には腰かけを入れて深さを調節し、安心してゆっくり入れるように工夫されている。お一人で入浴する方には、職員が脱衣場から声かけしながら、安全に入られるように支援している。入浴剤を好まれる方、敏感肌用の石鹸を使っている利用者もいる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご利用者個々のペースで日中居室やフロアソファ等で休息をとっていただいている。また、個々に合わせて居室の照明、室温、寝具を調整し安眠につなげている。不眠になりやすい方は日中の活動性が上がるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方や用量が変更されたら、日誌、連絡ノートに記載し全員把握している。下剤などは状態を診て、Drと相談しその都度細やかに調整している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の得意な事、好きな事を見極め、活躍できる場面を作り支援している。また、季節を肌で感じて頂けるよう、季節の行事、外出支援をし気分転換を図っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物、外食などご本人の体調や気分に合わせて支援しているが、外出の機会は減ってきている。今後、ご家族同伴のお出掛け等増やしていきたい。	
			(外部評価) 午前と午後にかけて、食材の買い出しに行く等、利用者が出かける機会を多く作っておられる。利用者の希望で喫茶店に出かけたり、近所のお店にランチを食べに行くこともある。利用者は、職員といっしょにマンドリンコンサートに出かけたり、美術館に出かけておられ、その際のポスターを自室に貼っている方もみられた。毎週日曜日に娘さんと一緒に外出して、ドライブや外食を楽しまれている方もいる。利用者個々に「個別外出支援計画書」を作成して、利用者が行ってみたいところに出かけられるような支援に取り組まれている。計画書は、時間等について具体的に計画されており、ある利用者の計画書には、ご主人との思い出の場所に出かける計画が立てられていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お財布はホームで管理させていただいているが、今後希望や能力に応じ柔軟に対応していきたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には支援しているが、頻度は少ない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアの窓からは田んぼが見え、田植えや稲刈りなど季節を感じることができる。また、調理の音や匂いを感じることで生活感も感じることができ、調理しながら会話をするなど交流しやすい環境にある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、利用者が生けた正月用の松・菊等の盛り花が生けられていた。調査訪問時、居間のテーブルで、利用者同士でオセロゲームを楽しんだり、ジグソーパズルを作っている利用者がみられた。窓からは田んぼが見え、利用者は「稲の成長がよく分かるのよ」と話してくださった。玄関先の花壇はレンガで囲み少し高くして、利用者がかがまなくても手入れできるようにされている。洗たく場には「色柄用ハイター」「下用タオル」「上用タオル」と表示したパッケージを用意して、職員が洗たくされている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>相性等考慮し、テーブルの位置、席を決めている。ソファや、裏庭のベンチで気の合うご利用者同士で歌を唄ったりおしゃべりされたりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居心地良くすごして頂くために、寝具やタンス、椅子など使い慣れたものの持込をお願いしている。入居後もご本人の希望や状態に添ったものを揃え、居心地良く安全に過ごして頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「ここが私の家よ」と言われ案内して下さった利用者の居室には、仏壇が置かれていて、テーブルの上に、ポットとカップが用意されていて、ご自分でコーヒーやお茶を楽しまれている。ご家族手作りの写真入りカレンダーやご家族が描いた絵を飾っておられる方もみられた。自室を自分でモップがけする方もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下、階段には手すりが設置し車椅子が離合できる幅もあり、安全に配慮している。また、状況に合わせた環境整備に努めている。テーブルの配置など変更した場合は、混乱を招かないよう気を配っている。</p>	